

第3回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和5年12月22日（金） 10:00～12:05		
場 所	大田市役所 4階大講堂		
出席者	委 員：14名／17名 （欠席委員：阿部志朗委員、小野寺久美子委員、三島裕貴委員） （代理出席：堀江真佐邦第二中学校長 ※和田美佐委員の代理） 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 渡邊総務課長補佐、清水学校施設係長、清水学校再編係副主任 川津学校教育課長、俵学校教育課主査 山根学事・魅力化推進室長、矢田山村留学センター長		
傍聴人	15名	報道機関	1社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
1. 開会（進行：渡邊課長補佐） ・委員の半数以上の出席（3名欠席）を確認後、本委員会の成立を報告 （検討委員会設置要綱第6条第2項による）			
2. 加藤委員長挨拶 11月12日に学校のあり方についての市民説明会が行われた。たくさんの意見が出たということなので、この検討委員会でもそういった意見を踏まえて進めていけたらと思う。			
3. 第2回会議の議事録の確認（進行：加藤委員長） 指摘なし			
4. 報告事項 （1）市民説明会（11月12日開催）について（説明：森部長、縄課長）			
説明事項に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員	市民説明会に参加された方のアンケート結果ということだが、学校再編についての市民向けアンケートは別途実施されるのか。		
縄課長	全市的なアンケートの実施は今のところ考えていない。要望いただければ我々教育委員会が出かけていき、小さな単位でも意見交換をさせていただいた上で、意見を集約していきたいと考えている。		
委員	この課題について関心を持っておられる方が集まっている中で、121件のアンケート結果をもって何かを決めるには数が少なく難しいと思う。検討してほしい。		
縄課長	このアンケートが全てとは思っていない。説明会で回答いただいたアンケート結果は、一つのデータとして分析をさせていただきたいということ。これをもって市が方針等を決定することではないということでご理解いただきたい。		
委員長	市全体でアンケートとしてはどうかという話があったが、小さな単位で説明会やっているということなので、その説明会での状況もこの場で事務局から随時報告いただけると参考になると思う。		

委員	新庁舎を計画するときの意見聴取もどのようにするかという議論があった。現在子育て中の若い世代の方の意見を聞くときは、インターネットを使って投稿できるような形をすると、意見を出しやすいところがある。時間を割いて集まってくださいというのはなかなか難しい。様々な情報を出す中で、意見を書き込めるような形での意見集約など様々な機能を使って、多方面から意見を集めてもらおうと、より年代層ごとに幅広く意見を集めることができると思う。ぜひ小規模の説明会も継続的に実施していただき、なおかつなるべく多く意見集約ができるように工夫をいただけたらと思う。
森部長	健康福祉部で子育てアプリというものを導入しており、未就学児がいる方を中心にアプリを使用している方がおられるので、そのようなものも活用しながら調査を進めることを検討していく。
5. 議事 (1) 五十猛小学校、鳥井小学校、静間小学校の統合について（説明：縄課長） ・統合後の学校づくりについて	
議事に係る質疑応答	
発言者	内容
委員代理	<p>校長会長の代理で出席した。三校のことについて校長会の中でも少し話が出ている。今回新しく出された提案内容の尚書き以降の部分だが、“遅くとも令和8年4月に統合します”という表記があった上で、“(仮称)学校統合準備協議会”について記載してあるが、これは現在どの程度進んでいるのか。また、“遅くとも”ということは、この学校統合準備協議会の動きによっては早くなるというふうに受け取られるが、そういう考え方でいいのか。</p> <p>それから、現場を預かる私どもとすると、三校はこのあたりがはっきりしないため少し不安なところがあると聞いている。子どもたちにスケジュール感が伝わるという点とか、ある学年の児童は『自分はどうなるのだろう』みたいなのところもあるのかなとか、私どもとしては、現場の行動も、保護者の方の不安も少なくしていきたいという思いがあるので、現在の予定についてももう少しわかることがあれば教えていただきたい。</p>
縄課長	<p>まず統合準備協議会に関して申し上げますと、設置をしたい旨をそれぞれの地域或いはPTAの皆様へ説明している。要は実施計画への変更が一定程度承認いただければ、すぐに統合準備協議会を立ち上げて、スケジュールも組みながら、地域或いは児童にもきちんと説明をしていきたいと思っている。本来だと年内に立ち上げまで行きたかったが、そこまで議論として進んでいないため、可能であれば年明けにと考えている。</p> <p>それから遅くとも令和8年4月ということについて、今後立ち上げる統合準備協議会の中での協議、或いはその中での決定によっては令和8年4月を待たずに統合を進めていくということはあるが、現在のところ、職員配置や物理的なことを考えていくと、事務局としては少し難しいのではないかと考えている。</p>
委員長	本日の提案内容が承認されたら早急に統合準備協議会を立ち上げたいという説明があった。他に意見があるか。
委員	子どもたちに必要な基礎的な教育や学びがどう向上するかといったところを各校がやっているが、統合することによって人数が増えるのとどのように向上するのか。これから求められる子どもたちの力を育むために、この統合によって追加で何らかの施設的な検討をするのか。特にふるさと教育となると、基本的な学習指導要領でやっているような学びにプラスして、大田モデルとなるこの統合によってそれを強化するような、何らかの施設的な検討、それから組織的とか体制的なものというのを、考えられるのかどうかだと思う。統合するというのは数での統合ではなくて、それによって教育の質の向上や、

	<p>今後求められる機能を追加してより良い学習環境を作っていく、そういったビジョンというものがあって初めて統合というのが非常に有効になると思うが、そのあたりの考えやスケジュール感はいかがか。</p>
縄課長	<p>施設面で申し上げますと、当然児童も増えるのでそれに対応するための施設改修が必要になる。また、統合して児童の学びの環境が悪くなるというのは避けなければならないので、それに合わせた施設整備が必要。</p> <p>また、体制作りについては、現段階でこうするとは申し上げにくいですが、統合準備協議会の中での検討によって、必要だと思われるものが出てくれば、それに対応できるような体制作り、或いは学校への支援というようなものは、市としても考えていかなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>資料ではふるさと教育が大きく出されている。確かに学校を統合するときふるさと教育はとても重要なものだと思っているが、例えば小学校1年間、各学年が1,000時間程度学習する中で、ふるさと教育は35時間。県ではその35時間をもう少し減らそうという考えもある。地域のことを考えるとふるさと教育はとても大切だとは思いますが、それよりも寧ろ三校がどのような子どもを育てたいのかがまずメインになり、それを育成するためにふるさと教育をどうするかということの方が大切に思う。</p> <p>こうやってふるさと教育の内容を見ると、三校が一緒になれば当然内容が増える。増えてしまったものをどう削減しようかという考え方ではなく、今日いただいた資料3に各学校のランドデザインがあるが、そちらの方でどんな子どもに育てたいのかということを考えの中心にした方が良く思う。</p>
武田教育長	<p>私も同感である。11月12日は池田小学校・川合小学校の統合に対して、どういう取り組み・考え方の基に進めたかという校長先生の実践発表があった。私も以前温泉津の4校の統合のときに、それぞれが持っているそれまでの取り組みを出し合って、新しく作る学校の“目指す子ども像”や、“目指す学校像”に一番合っているのはどの地域か、各学校の全部を取り込むことができないので、取捨選択していかなければならなかった。そのためにはやはり学校の教職員が校長を中心に、この学校のどれを持って作っていくかというところを、改めて自分たちが問い直さなければならないことになった。池田小学校と川合小学校の取り組みも同様で、池田の何を残していくのか、川合の何を生かしていくのか、再度その地域を広げてみて、大きなエリアで子どもに故郷の何を持って新しい学校を作っていくかというのを再考された。</p> <p>実践の話を直接聞いたときになるほどと思ったことは、池田の田植え囃子を川合の子どもがぜひやってみようということで、クラブ活動に取り入れたり、音楽の授業に取り入れたりしたが、クラブ活動に手を挙げたのは川合の子が多かった。</p> <p>つまり、これまで大田の魅力を川合の子どもたちは川合の中で学んできたが、校区が広がったために池田にある魅力を掴みにいってくれたのだと、ふるさと大田をもっと広い視点で捉えようとしてくれたことに、驚きとともに嬉しい気持ちになった。そういう意味では、時間数もこの後どのようになっていくかわからないし、それぞれの学校で取捨選択が必要になってくるかもしれない。また、自分たちが進めている学校が、本当にこの内容でふるさと教育が進められるのかを問い直していかなければいけない時期になっているので、その点については、新川合小学校の取り組みが先進的なモデルになっていくのではないかと考えている。</p>
委員長	<p>統合準備協議会で非常に大きなことをいくつも検討いただくことになると思う。今日審議いただいた内容を統合準備協議会に引き継いでいきたい。</p> <p>本委員会は基本方針や実施計画に対して見直しを検討するという会である。先程提案</p>

	があった五十猛小学校、鳥井小学校、静間小学校の統合について、実施計画の方に記載するということで本委員会として了承いただけるか。
委員	(はい)
委員長	この場で了承したとする。
(2) 大田小学校について (説明：清水係長、縄課長)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺校の統合を見据えた校舎の建て替えについて ・ 統合後の学校づくりについて 	
議事に係る質疑応答	
発言者	内容
委員	先程の五十猛小学校、鳥井小学校、静間小学校の時に意見が出されたことと同じで、学校を建て替えるということと大きく関わっているが、『小学校教育の中心的な役割を果たす』と書いてあるが、これはどういう役割なのか。統合したら子どもが増える、教職員が増える、というようなことしか書いてないような気がする。大田市の中心的な役割を果たすことは、どういうことが求められているのかが見えない。
委員長	事務局から補足いただけるか。
武田教育長	<p>一つは先程部長の説明のとおり、大田市教育ビジョン基本構想にある『わが里を誇り、大田と世界の未来を拓く』、方針としては『生き抜く力を育てる』『「あるもの」を活かす』『地域を支え、創る』、こういった三つのものが具体的に実現していくような学校作りに取り組んでいただきたい、あるいは取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>一方教職員からすると、学校の規模が小さくなっていけばいくほど、そこにいる教職員の数は限られ、今までなら校内で教職員の力もアップできるような校内研究或いは校内研修が、それぞれの学校でできていた。しかし現在はそういうものが学校の中で時間的にも取れず、人材的にも互いを刺激し合って力をつけていくということができなくなってきているので、やはりこの大きな学校の中で、教職員がある一定数の子供たちに学力をつけたり、社会性を身に着けたり、さらには世界に通じていく・世界と繋がっていくというような、具体的な姿が見える化でき、教職員が生の研修を通して力をつけていくような形ができればと思っている。</p>
委員長	よろしいか。
委員	説明はわかった。
委員	<p>先程の指摘と同じようなところだが、今回校舎を新しくすることや、周辺の幼稚園や保育園が統合することによって敷地ができること、こういった部分を踏まえながら、小学校としての機能、その中には先程言われた教職員のスキルアップをするような機能を持たせる必要がある。また、各学校の2023年のランドデザインを読ませていただくと、ICTに関する教育はまだ“タブレットを使う・活用する”で終わっている。それはあくまでも道具なので、教育の質を向上させるために、どのようにそれを利用して、子どもたちの教育がどう変わるのか踏み込んでいくような目標が必要という気がしている。逆に言うと、新しい学校として作る中で、そういった新しい次世代の教育を進めていくことが可能になるように考えていかないといけない。</p> <p>ICTに対応した図書館や、GIGAスクールに対応し、1人1台端末に対応した教室の大きさしか書いてない。本来であれば、それを使って教育の質が変わっていくことや、子どもたちの学びが変わっていくことが大事なので、そういったことを先進的に行って大田市内の他の小学校に教育が波及していくような形で、統合によってそういった教育が変わるというビジョンを持った方がいいと思ったのが一点。</p> <p>先程言った周辺の土地や、例えばプールの問題は全国或いは島根県内でもあるが、各</p>

	<p>学校が持つ時代ではなくなっている。プールを使った教育が大事だとは思いますが、例えば民間の力を使って、屋内の形にして、社会人など健康志向の方も、年間通じて使えるような形で活用するような考え方もある。P F IやP P Pといった民間活力を使って、常時使えるものとして、小学校の教育を天候関係なく利用できるようにする。プールを新しくするのに伴いやり方を変えていき、それを普段は住民の皆さんも活用できるような施設として活用できるようにする。学校としての機能、それから住民と接点となるような機能、そういったものを新たな学校として考えていく。要するに今回再編統合と校舎改修をすることによって、大田らしい教育の環境、或いは住民とのコミュニティの中心となる環境作りなど様々な機能を整理する必要がある。</p> <p>このような資料を見させていただくと、文章が多く、どんなビジョンでどういう絵を描いているかというのが見えづらい。そういったものに落とし込んでいき、この統合が大変という印象ではなく、こういう教育に変わっていくのだというわくわくするような魅力が見えるようにすると、全体の将来の教育のために中心になるのだとわかるので、そういうビジョンが見えるようにしていただきたいと思う。</p> <p>こういうふうにはいろいろな事業が動いていく、その中の中心の事業なので、教育だけではなくて、いろいろな形での次世代の教育環境というのを考える必要があると思う。</p>
武田教育長	<p>まちづくりの視点から意見をいただいている側面もある。まちづくりとして考えた場合には、この大田小学校というのは、大田のまちなかの中心的なところに位置する学校になる。それを一学校の機能だけで収めるのではなく、先程の発言にもあったように、図書館の機能あるいは図書館分室のようなものや、高齢者の通いの場のような誰もがそこに来て、休み時間に子どもと触れ合ったり、自分たちも語らいあったりできるように。また、放課後に学校の機能を閉じたとしても、隣に行けば放課後児童クラブのエリアがあるというのも考えられる。そして、先程発言にあった、大田市にとっては非常に力不足なところである I T分野だが、次世代へ向かった教育して、例えば民間の I T企業の方が夕方から常駐してそこ行けば子どもたちが自由にプログラミングや I C Tを学べるという場も含めた複合的な機能をもたせるという案も考えられる。</p> <p>一つの小学校のエリアが、学校の機能ではなく皆さんの集いの場になって、学校が今まで担ってきた負担感みたいなものが、それぞれの大田市の皆さんで補完・ケアできるような場所に新大田小学校がなっていくとすればいいと思っている。さらに言えば、これが一つの大田市のまちづくりモデルとしてあるので、各地域にはまちづくりセンターを中心としたエリアがいくつかあって、そこはネットで繋がっていくようなことも考えられる。そういう意味でまちなかに木造の誰もが集えるハブのような場所があり、その一つが学校というイメージを、新しく持っていくとどうだろうと考えている。</p>
委員	<p>説明会のアンケートの中で、学校の統廃合を楽しみにしていきたいという若い方の声があるよりあったと認識した次第である。この大田小学校の統合についても、今後統合を検討し、中身についても統合準備協議会で協議されるということなので、そこについてはしっかりお話していただきたいと思う。</p> <p>先程の発言に連携するが、恐らくじっくりと時間をかけて協議する部分もあると思うが、一方でこの施設整備の検討にあたっては、令和6年10月に施設計画が完了する予定になっている。事例で挙げられている出雲や松江のものと違って、大田小学校は町の中心にある学校なので、教育長の発言にあった様々な複合施設化というのは避けて通れないものだと思う。</p> <p>プールをなくしてしまうという選択肢があるのか。そうでなければ全国的に検討されているプール自体を屋内化していく、また収益化も考えながら複合的に利用していくと</p>

	<p>ということが検討される必要がある。そういったことを考えていくと施設計画のスケジュール感というのが、今後のこの大田小学校のあり方を検討していく上で統合準備協議会を設置していくというスケジュールとあってないという感覚があるが、そのあたりいかがか。</p>
森部長	<p>まずイメージだが、この検討委員会では大きな方針を決定いただくことが一番の目的である。確かに中心的役割の中でどういう機能を持たせるかということについては、違うステージでの議論というのは必要だと思っている。それが統合準備協議会ということではなく、庁内においても横断的な議論が必要であり、大田町或いは関係する町の方々と、準備協議会ではなくて、その前段の会議が必要と考える。この方針が一定程度承認いただければ、次のステージへ展開していきたいと思っている。</p> <p>その中でプールについては、全天候型のプール設置というのが非常に課題になっている。ただ、今のところその議論が進展していないということも、反省をしていかないといけないと思っている。この大田小学校の建て替えが、市内各学校にプールを配置するのかもしれないかという一つの大きな試金石になるので、ここも先程の別のステージの中で議論をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>承認されてからも計画の見直しが当然あると思う。幼稚園と保育園の部分があるので、後々検討していく部分もあると思うが、やはり教育長の発言にあったような学校にしていくか、多分これが皆さん最大の関心だと思う。繰り返しになるが、中心部に位置する学校なので、どのような学校を整備するのかということが大きな問題だと思っており、いただいた資料にも今後検討が必要となる事項として謳っており、やはりまちなかの学校に当たっては全国的に複合化をしていく、それを試行していくというのがトレンドになっているかと思う。やはりその複合化の効果として、施設の機能強化することによる学習環境の高機能化・多機能化、それから児童・生徒の施設利用者との交流、地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成、専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援、当然ながら効率的・効果的な施設整備もあり、やはり今大田市の新しい教育が求めている項目というのが、この施設整備の複合化というところと切り離せないと思っている。</p> <p>一方で施設の複合化の課題として挙げられるのが、安全面も含めた施設計画上の工夫が要するというのと、もう一つが地方公共団体内における部局間の連携、教職員や地域住民との合意形成となっており、ここをきちんとしていかないと新しい大田小学校の将来像が見えてこないと思う。</p>
委員代理	<p>統合の計画の話と、学校の理想を追求していく話が両方この機会に合わせて話されているので、難しいところもあると思っている。例えば提案内容の文言の中に『教職員数も一定数確保され～』以下の一文が本当に必要なのか。中心的役割という話がたくさん出てきたが、この統合計画の中に中心的役割という言葉を入れる必要があるのか。先程部長が違うステージでという話をされたが、それを入れることで、大田小学校は特別な学校であるっていうことをここで宣言することになる。それは周囲の学校にとってどうなのかと、現場の教員としては思うところがある。もちろん人数が多い学校や施設がきちんとしている学校では、それは整っていく、あるいは整えていただかなければいけないと思う。しかし、小学校教育の中心的役割を果たす学校という表記をしてしまったときに、大田小学校に勤務する者としては、常に研修は大田小学校であるのかとか、進んだ教育を常にやっていくっていうことで、全ての会は大田小学校で行われるのか、そんなことも危惧してしまうところもある。</p> <p>そのためこの実施計画の中に、教職員数も一定確保されるため中心的役割を果たす学</p>

	校として大田小学校を認定するという文言が果たして必要なのかと、現場にいる者としては思うところがある。
委員長	委員の方から提案内容に対する文言について話が出た。これについて事務局としてどういうふうに考えるか。
縄課長	別紙2の文言だが、中心部にあって、その中心が学校だというイメージの中で中心的役割というふうにした部分もあるので、改めてこの文言については少し修正を考えさせていただきたいと思っている。記載をしない、或いは表現を変えていくといったことでお示しをさせていただきたい。
委員長	先程からの発言の中では、やはり統合後の学校について多く話が出ている。特に複合化であり、集合ではないわけで、集まることによって新たなものを作っていくというのが複合化であると思う。組み合わせによって新たなものを作ってそれをどうみんなが共有するのか、複合化と共有化が重要になってくる。 もう少し委員の皆さんから意見をいただきながら、提案内容を審議する場であり、このあたりが核となると思うので、ぜひご意見いただきたいと思う。 PTAの方からも出席いただいているが、どのような学校に保護者として期待していくのか意見をいただきたいが、いかがか。
委員	一個人の意見かもしれないが、我々保護者としては子どもに対して手厚く教育をして欲しいというのが一番にある。私には小学校の子どもがいるが、やはり先生が自分の子どもにしっかり向き合っているのかというところを、お父さんお母さんたちは望んでいると思う。そのため提案内容にあるように、教職員数が一定数確保できるというところはすごくありがたいと思う。子どもに対して向き合う力をアップさせてほしいというのが、我々親としての思いである。
委員	先程話に出ていた大田小学校の複合化、地域との連携というところがすごく重要だと思っている。これからサンレディー大田の利用方法が変わるということで、一利用者としてはプールも含め、使える施設が増えるということはあるありがたいと思っている。 また、統合について知り合いの保護者から聞いたのは、五十猛小学校、鳥井小学校、静間小学校の統合について話が進んでいるというのは保護者も把握しているが、制服や体操服など、小さいところがどうなるのか不安に思っているという話を聞く。そういったところもあわせて少しずつ話を進めていければ良い。調整することがたくさんあると思うが、費用面のことも不安に思っていることをお伝えしたい。
委員	大田市にプールがなく、水泳を習う子どもたちは、出雲方面や川本方面までバスで通っている。大田市に誰もが使えるプールがあれば、そういった子どもたちも使えると思う。お年寄りの方もプールに通うのであれば多伎や出雲に行っているため、大田市にプールがあれば良いと思っている。
委員	複合施設やまちづくりとしてのモデルなど様々なアイデアが出てきているが、そういう議論をしていくときに私が一番心配しているのは、一番大事な『全ての子どもの学ぶ権利を保障する』ということが抜けてしまうこと。常に全ての子どもが小・中学校であれば普通教育である。これが保証されないと、将来の自分の人生が活かされない。 現在子どもたちの状況は多様化しており、学校だけでは普通教育が十分保障できない状況が出てきている。議論を進めるにおいて、常にこのことを頭に置いて検討しないと、子どもがない学校のあり方・再編になってしまうというところを一番心配している。
武田教育長	いろいろな機会を通じて申し上げていることだが、先程の発言内容は非常に重要なことだと思っている。現在の学校現場においても、そのことは心して取り組んでくれていることと思っている。しかし、やはり学校に通っている子どもたち、或いは通えないで

	<p>いる子どもたち、或いはそのまわりにいらっしゃるご家族の皆さん、そういう方々が非常に多様になっていっているので、多様な学びこそ一つでも二つでも多く大田市の中に作っていくことが、私たち大田の大人たちの仕事でもあると思っている。</p> <p>大田小学校の形も、そこに複合化の視点が入ってきたということは、学校現場に全ての子どもたちの学びを受け入れられるだけの選択肢が揃っているかということ、選択肢が揃っていないので、その地域の人のお力を借りたり、それぞれの企業の専門性を取り込んだり、また違う施設等の果たしている機能もそこに入れていくという発想から、私はこの複合化が生まれたと捉えている。求められているものと異なるものではないと思っている。</p>
委員	<p>今回の大田小学校の統合の基本になる考えが、川合小学校、久屋小学校、北三瓶小学校、志学小学校と隣接する学校で一緒になるというものだが、今回児童数の見込みが記載してある資料4-3を見てみると、五つの学校が一緒になったときに、教職員がどれだけ多くなるのかということ、それほど多くはならないと思う。大田小学校の令和11年度の児童数の見込みでいっても、1年生から4・5・6年生は3クラスで、2・3年生が2クラス、それがもし一緒になっても、2・3年生が3クラスになり、5年生が4クラスなので、クラス数でいうと3クラスほど増える程度である。</p> <p>きっと志学小学校、北三瓶小学校には3名から5名ぐらいの先生方がいらっしゃるだろうし、川合小学校や久屋小学校でも10名ぐらいの先生方がいらっしゃる。30名近くの先生方がいらっしゃるが、それが一つの大田小学校になっても、クラス数が増えて教員が4～5名増えるだけで、結局元々いた教職員の数は一緒になった場合ぐっと減る。一つのクラスの子どもたちが増えるので当然そうなるわけだが、子どもたちをしっかりと見ようと思ったときに、少し中途半端ではないかという気がしている。</p> <p>これから先のことを考えたとき、例えば長久小学校も一緒に考えておけば、4クラスまたは3クラスが一緒になっていくこともできるのではないか。校舎が大田小学校のこの場所にあるからだが、以前の説明のときにも本当にこの場所がいいのかという質問もあった。場所をもう少し市役所の方に移せば、長久小学校区から歩いて通える子どもたちが増えると思うし、本当に市の中心にある学校ということも考えられる。</p> <p>先のことを考えたときに、それぞれの各地域を大切にしたいということも当然あるが、本当に先のことを考えたときにはそういうようなことも一つ考えてもいいと思う。</p>
縄課長	<p>長久小学校について発言があった。今回示している素案1と素案2について言うと、今後長久小学校の児童数の状況によっては大田小学校への統合を検討するという付帯条件をつけて素案を示している。そういうことでいうと、今後、大田小学校は施設が劣化をしているので、当然近隣の学校も統合を見据えた施設整備はやっていきたい。その中で子どもたちの学ぶ環境は一定程度確保していくということは必要だろうと思っている。ここのところはまずはご理解をいただきたいということで、その先については状況に応じて例えば別の学校も含めてさらに統合を進めていくのかというのは考えていかなければいけない。</p> <p>ただ、校舎の建て替えの場所について言うと、これを定めていかなければ、取りかかれないということがある。新たな土地を設ける、求めるということになると、その分だけ時間や費用がかかっていくので、こうした点も総合的に勘案をして考えさせていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>説明の内容はよくわかった。別件で言うと、長久小学校が今まで2クラスあったが、これがずっと続くというわけではない。学校現場にいて、2クラスある学校が1クラスになるところというのが一番学校運営をする上では難しいと感じる。1クラスあたりの</p>

	<p>子どもたちは増えるが、教員が減るので大変だという経験があった。また、現在高学年の教科担任制も言われているので、そう考えると、複数クラスというのが望ましいと考えている。長久小学校は当面の間そういうふうにしておいて、人数が減ったら大田小学校という考えももちろん分かる。長久小学校を特色ある学校にしていくということは資料の方にもあったので、いろいろな学校から通える特別な学校というふうにして残すという点もあるが、1クラスになるのであれば、大田小学校と一緒にするという考えもあっていいのではと思う。</p> <p>近隣の小学校と別れていたが、人数が減ったので統合するというのが他市でもあるので、市内の中で、中心的な位置で一緒にすることができるのであれば、早めに考えてみても良いと思う。</p> <p>現在の大田小学校の場所から動かすのが難しいというのであれば、学級数のことなどを考えたときに、もう少し先のことまで見据えて、どのぐらいの規模の校舎を建てるのか、学級数をどうするのかというようなことも一緒に考えていく必要がある。</p>
<p>森部長</p>	<p>市民向け説明会でも、出生数が175人ということであれば、数だけで言えば中学校は市内に1校で十分足りる人数だという意見もあった。先々を見据えたとき、我々が素案で示している学校数というのが本当に必要なかという意見もあった。</p> <p>確かに先程の発言もそのとおりで思っていて、正直なところと言うと、長久小学校と大田小学校は、中で議論した際一緒にするのは難しいという話であったが、既に分かっている令和11年度やその先のことを考えたときに、このままでいいのかという意見をいただいたことは改めて助かるという思いにも至っている。</p> <p>この議題は2回目ではあるが、もう少し中で検討する必要があると思ったので、このところは次回のところでもう一度示すことができればと思った。</p>
<p>武田教育長</p>	<p>指摘をいただきありがとうございます。私たちとして苦しいところは人口がどういふふうに変わっていくか、その中で子どもの数が地域によってどういふふうに変わっていくかなど、予測しないといけないが予測できない部分も多くあり、でもどこかで誰かが決断しなければいけないというところに立ち合っているところである。したがって、様々な意見に耳を傾けて、少しでも最大公約数のようなところを探っていきたいと思っている。</p> <p>もう一点は、実施計画は素案を示したとおり、大枠を決めて、しかもそれで決定ではなく、進化していくものだという捉えをしておかないといけないのではないかということである。例えば、他市では地域から統合してほしいと声が上がっているという事例をおっしゃった方がいるが、それらは他市がもう一つ前から実施計画を決めて、それを示していたので、将来そうなるならもうここが地域としてギリギリだから統合をお願いしよう、ということで統合に至っているということも理解いただきたい。そういう意味では、その実施計画の大枠を決めていかなければならないというところに立ち合っているということもお伝えしておきたい。</p> <p>私が言った二点について、皆さんの意見をシャットアウトする気はサラサラないが、大田市教育はそういう場に皆さんとともに立っているというふうに捉えていただきたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>先程の三校統合の話、それから大田小学校というのは時期的に喫緊の課題で、やっていかなければならないので出てきていると受け止める一方で、大田市としての教育、大田市として地域をどうしていくかという、わくわくするような未来像みたいなものないかと整合が取れないと思う。別紙1、別紙2の書きぶりに関してもそうなのだろうというのはわかるし、これで確定ではなくて方向性であって文章が変わってくると思うが、</p>

	<p>やはり教育長の発言にあったような思いや、ICTに特化しているとか、あるいはふるさと教育なのか、私はどちらかという子どもたちが農業や農林水産業を経験する機会を作りたいとか様々な思いがあるので、こういった思いがあって大田小学校の整備はこういうふうな方向性を持ってやりたいと言う関連付けが見えづらいのかなと思う。そのため、話を進めていく上ではやむを得ないのだろうと思う反面、市としてどうしていくかという大きなところが、もう少し共有された上で、大田小学校に関してはこういうところという話に繋がってくると、よりわかりやすくなってくると思う。教職員の数とか中心的な役割を果たすということも、大きな中での位置づけとしてはこういうふうに位置付けているということが伝わってくるのではないかな。</p> <p>こういう話を進めていく上では難しいところはあると思うが、市としての大きなビジョンみたいなのがもう一度共有された上で、そことの整合であったり、それを持って大田小学校はどうしていきたいかというところが見えてくると、より伝わりやすかったり、それだったらこういうことができたり複合化もあるというような、意見を出していきやすくなると思っている。</p>
委員	<p>個人的に統合となると、地域の子育て機能が集約されていき、そこでどうしても子育てをされる方々の選択肢が減るのではないかなと思うので、根本的には非常に反対をしているというのはもちろんあるが、ただ今回の統合が致し方ないところもある中でその建設的な意見を持ってということと、アンケートの中で『小さい学校を残していくのは年寄りのわがまま』という結構な意見も出ていたので、見直しもどのように考えていくかが大事だと思っている。</p> <p>その上で、就学前の子育てに携わる者として一番心配になってくるのが、統合することによっていろんな地区から子どもが集まるが、当然そこにそれぞれの保育所があって、それが増えれば増えるほど、現在もだが、小学校と保育所間との十分な連携というものが非常に難しいと思っている。</p> <p>今年度から保幼小の連携というところで管理職の先生方も含めて一緒になって、どのようにしていくかということをお教育委員会の方が主導で進めていただいているが、現実現場の先生方にしっかり降りて、十分な連携がとれているかといったら、まだまだ疑問に思っている。保育所の学びというのは遊びを通して様々なことを経験していき、一人ひとりがお互いを認め尊重し合いながら主体性を持った成長など、保育所でいろんなことを取り組んでいる。小学校と十分な連携ができていないと難しいということが、これからも起こってしまうのではないかと、小学校が大きくなればなるほど心配になっている。</p> <p>そして令和11年度の子どもの数を見ると、地区によっては非常に厳しいところがあり、その時点での保育所運営も厳しくなってくるので、本当に連携が取れるところは難しいと思う。しかし、これからの統合に向けていろんな計画を立てていく中で、保育所に通っておられる保護者も、いろんな面で心配されている。その中で、保育所幼稚園と小学校との本当の意味の連携をどのように考えているかというところを、ここでは教育委員会のみになるが、健康福祉部の担当課とも話をさせていただき、どのようにタッグを組んでいって、保護者の心配がないように、子どもたちの学びが連続するように、そういうところを考えていきたい。</p>
森部長	<p>統合によって、いろんな課題が一層浮き彫りになってくるということだと思っている。庁内では健康福祉部とも協議を重ね議論を深めていきたい。</p>
委員長	<p>時間も迫ってきているが、別紙2、本日の提案内容について確認いただきたい。前回提示したものから、尚書き以降の部分に統合準備協議会の話が入っているが、ここまで</p>

	<p>の委員の皆様のご意見を踏まえると、『教職員数も一定数を確保され〜』以降の文言について意見があった。また、『一方で〜』以降については、長久小学校はどういうふうを考えていくのかという話も出た。そして尚書き以降の部分では、学校統合準備協議会で審議するとなっているが、今回の大田小学校のこれからというところを考えたとき、複合化案も出ており、これは学校統合準備協議会だけでは十分話しきれないことであろうし、市の総合計画も十分関係してくるということ。別のステージで、という話が出ていたが、詰めていかないこともいけないこともあるかと思う。そのため、今回の提案内容については、かなり修正を加えないと了承したという段階に至らないと思うが、修正案を次回出してもらい、継続審議という形にする方がいいと思うが事務局いかがか。</p>
縄課長	<p>文言については先程いただいた意見を踏まえて修正させていただきたい。ただ一点、我々とする環境影響調査などは事前準備としてさせていただきたいと思っている。建て替えに向けた準備をこの中で進めていくという部分だけは承認いただいて、全体としての提案は、次回修正をしたものを示したいと思っているがいかがか。</p>
委員長	<p>事務局から環境影響調査などの事前準備の部分については進めさせてもらいたいが、提案内容についてはもう一度審議するという形でよろしいか。</p>
委員	<p>(はい)</p>
委員長	<p>それでは提案そのものについては継続審議ということで、周辺の環境影響調査については、時間のこともあるので進めるということです。</p> <p>大田小学校の今後のあり方について、具体的なものも出ているが全体的なデザインの中でこれがどう位置づくのかというような意見もあったので、ぜひこういったところも次回事務局の方から提案いただきたい。議事を進めながら、委員会の方がかなりダイナミックな構想を持っていると感じるが、これが実現し、まず子どもを一番に考えるというところを大事にしながらこういったプランがどのように機能していくか、再度提案いただきたい。</p>
<p>6. 意見交換</p> <p>(1) 再編後の学校の特色づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びの選択肢について（説明：渡邊課長補佐） ・素案ごとの学校の特色について（説明：縄課長） 	
<p>意見交換に係る質疑応答</p>	
発言者	<p>内容</p>
森部長	<p>予定の時刻となりました。今説明してすぐ意見というのも難しいかもしれないので、この部分については次回改めて意見をいただくといことのでいかがか。</p>
委員長	<p>今日のこの場で是非、ということであれば意見をいただくが、そうでなければ次回継続して意見交換する場を持ちたいということだが、それで良いか。</p>
委員	<p>(はい)</p>
委員代理	<p>一点だけ発言させてほしい。校長会で出た話だが、市民会館で行われた説明会の際に、素案の行程表を見て、そういうものがあるのかと知った保護者の方がおられたという話が学校の方に伝わっているようだ。地域の小さな説明会の中では説明されているが、それからホームページには載っていない。情報が錯綜しており、予定があるのであれば知らせてほしいという要望もあるので、情報公開についても一度精査いただきたい。</p>
縄課長	<p>その指摘は様々なところから伺っている。工程表は当初掲載していたが、修正してから掲載ができてなかったということだったため、改めてそれが掲載をさせていただきたいとし、情報についてもしっかりと出していきたいと思っている。</p>
委員長	<p>それでは意見交換と協議を一旦ここで本日は終えたいと思う。</p>

6. その他（説明：縄課長）

●次回開催予定日の確認

日時：1月29日（月）

場所：大田市役所4階大講堂

7. 閉会

以上をもって、第3回検討委員会を終了した。